

夕陽會報



春を待つ（函館山山頂より市街地を望む／2月4日撮影）

第206号



◇巻頭言◇

学生文化

監査笹原志郎

（昭和38年卒）

日本国中を震撼させた東日本大震災の発生、それに伴い福島第一原発事故がもたらした放射能汚染から間もなく一年が経とうとしている。新しい年を迎え、希望を持って力強く生きようとする姿の一方、遅々として進まない復興への道程、繰り返し放映される特集番組を視聴しながら心にもどかしさが残る。国として被災地・被災者の実情や心情を最大限組み取ったスピード感を持った対応を期待したい。

さて、母校である北海道教育大学函館校が二〇一三年四月から現行の教育学部人間地域課程を再編し「国際地域創造学部」（仮称）に改組する旨の構想案が発表されたことは前号の橋田会長のコメントで示された通りである。

現課程に改変される際にも、会員の中では大論議の末、断腸の思いで受け入れを容認、それらに対する同窓会としての組織の在り方など難題に対処しつつ今日を迎えている。わずか七年間で更なる新学部への改組は、少子化などにより教員採用数の増加が見込めない中、教員以外へ就職を希望する学生への対応など時代背景を伴うものとは言え、非常に難しい運営が予想される。「教育学部」という冠が取りはずされる場合、現在、学生の四分の一ほどが教員免許取得を目指している現状、先導的な教育実践や研究を担ってきた附属学校の存続、また、道南の教育状況等々、不透明で不安の種は尽きない。今年五月末までに大学設置審議会に構想案を提出し、承認されればということではあるが、会として、一会員として母校の向かうべき姿を今一度注視していきたいものである。

母校の「進路開発」授業対応（教員志望コース）に若干の手伝いをしたり、教員採用選考検査の準備等での学生対応を通じて、函館校・鷹潭副学長が常日頃述べている「現実社会の厳しさ」と「ゆりかごのような大学」とのギャップを改めて実感することがある。

文部科学省の「教育統計」等を基にした高等教育就学率によると、北海道函館師範学校創設時は一％、昭和に入っても三％と戦前の高等教育受容層がいかに限られたエリートであったかが理解できる。ちなみに私の入学時の昭和三十四年頃は十％程であった。その後、高度成長の時代に入り大学生は急激に増加し、今日では志望校を問わなければ全入の時代を迎えるまでになつてきている。時代の推移の中で学生文化も変遷し、過去の教養的文化風土が薄れ、豊かな大衆消費社会の中で根本的变化を遂げざるを得なくなっている。私が接する学生も社会状況を反映して思考や価値観は多様なものがあり、とりわけ情報文化への対応には鋭いものがある。社会の厳しさと隔絶し一見ひ弱な姿を見せているが、僅かなサポートで懸命に取り組み結果を示す学生に出会う時、頼もしさの一面も感ずる。

大正三年からずっと続いた教員養成の道は、再度大きな変革が求められている。今後、母校に学ぶ学生の殆どは教職以外の活躍が期待されるが、開学精神のDNAは確実に受け継がれていると信じたい。困難な時代であればこそ、彼らにとつてもより一層身近で魅力ある同窓会へと変貌できるのか、同窓一人ひとりが試されている。

栄誉に輝く同窓



○瑞宝双光章

心温かい仲間の支えに感謝

北斗市 渡部 智夫
(昭和30年卒)

平成二十三年秋の叙勲の栄に浴し、十月十日、妻同伴で国立大劇場において文部科学大臣から勲章・勲記の伝達、皇居の豊明殿で皇太子殿下から労いと励ましのお言葉を賜り感激の極みでした。早速、夕陽会長様はじめ、多くの皆様より、鄭重な祝意を戴き、厚くお礼申し上げます。渡島管内の中学校に勤務し、厳しい先輩の指導の下で研究授業を繰返し、教育の原点を学びました。その後、胆振教育局に勤務となりました。その後、難しい課題にも当面しましたが、先輩や同僚の温かい支えで職務を遂行できました。教職勤務三十八年間の最後は、四校十

四年間の校長勤務でした。「地域に根ざし、子どもの目線に沿った指導」を心掛け、真摯に取り組む仲間と共に学校経営に当たりました。在職中は、主任制や教育課程改正、国旗・国歌の扱い等々で行政と職員団体が対立し、学校にも暗い陰を落としていました。そのような状況の下にあっても、良き仲間にも恵まれ、職務を遂行することが出来、この上ない幸せ者であったと喜んでいきます。特筆すべき業績もなく叙勲とは縁遠いものと思っておりましたが、今回の授章は身に余る栄誉であり、多くの方々のお力添えのお陰と深く感謝しています。



○瑞宝双光章

ただ感謝あるのみ

森町 岩村 吉男
(昭和31年卒)

平成二十三年秋の叙勲に際し、文字通り図らずも「瑞宝双光章」受章という身に余る栄誉に浴し、心から感激しているところでございます。しかし、九月末、叙勲内定という一報を受けた時、嬉しさと共に多少複雑な心境にもなりました。というのは、教育界に身に置くこと半世紀余になりますが、残念ながら誇るべき功績のない小生としては賞の大きさに戸惑いを感じたからであります。十一月三日、新聞報道。早速、夕陽会会員諸氏をはじめ各方面から、心からなる祝意、激励のお言葉等を賜り、連日、感動の極みでございました。

十一月九日、家内同伴で上京。翌十日、いよいよ本番。まず国立劇場において勲記・勲章を拝受。その後、皇居に参内。豊明殿において、天皇が体調不良のため代わって皇太子から労いと激励のお言葉を賜り、感動の連続の中、全日程の幕を閉じました。連日、緊張の連続ではありましたが、このような晴れがましい場に身を置かせて頂けたのは、偏に夕陽会会員諸氏をはじめ出会った数多くの皆様の思し召しがあったればこそと改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございます。



○瑞宝双光章

振り返って

札幌市 鈴木 幸治
(昭和31年卒)

この度図らずも平成二十三年秋の叙勲で拝受の栄誉に浴し身に余る光栄に感激致しております。この事は多くの方々の指導やご協力のお陰であり心より感謝申し上げます。早速夕陽会長様よりご祝意を戴き有難うございます。顧みますと昭和三十一年何も知らずに聾学校教師となり、コミュニケーションが成立せず日夜悩み苦しんだ事今でも思い出します。聾学校が義務化された直後で学級内でも年令に相違がありしかも大半が寄宿舎生活で可哀想な感じがしました。当時の校長先生は入学式の挨拶で、小学校では喜びの入学式だが聾学校は家族と涙の別れの入学式ですと言われた言葉が胸に刺

さりこの子供達に何とか生きる力を培ってやらなければそんな思いで一杯でした。但しその頃はまだ学習指導要領もありませんでしたので個々の教師の創意工夫や技量に委ねられ、題材の設定や指導内容の吟味、展開方法等随分悩んだり苦しんだ事を今でも思い出します。教職生活三十九年、その間聾学校五校、養護学校二校と七校の特別支援学校で勤務し、大過なく職責を全う出来たのもこれらの事が素地として培われ身についたからではと思ったりしています。これからもその気持ちを忘れずに有意義な人生を過ごして参りたいと考えております。夕陽会の益々のご発展をご祈念申し上げます。



○瑞宝双光章

出会いに感謝して

函館市 清野 弘子
(昭和39年卒)

この度は、はからずも叙勲の栄に浴しこれもひとえに皆様方のご指導、ご支援の賜と心より感謝申し上げます。早速、夕陽会よりご鄭重なご祝意を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。平成二十三年十一月九日、最高裁判所へ赴き、長官より勲章・勲記の伝達を受けてまいりました。長官のご祝辞の中で「三月十一日の東日本大震災の復興に向けて法的手続きによる解決が増える」と私達の任務への励ましのお言葉をいただき、感激で胸いっぱいになりました。午後からは皇居に参内し「春秋の間」に於いて、御入院中の陛下の代理代行で皇太子殿下の拝謁を賜りました。私は昭

和五十八年四月一日付で函館家庭裁判所より家事調停委員を拝命し、今年で三十年目を迎えます。この間、家庭の諸問題、金銭トラブル等の多数の事件に関わり、当事者と共に歩んでまいりました。大学で学んだ四年間は教職課程と専攻の家庭科に関する学問でしたので、いづれも家庭生活、子どもの幸せを考える、私のライフワークと重なり、幸いでした。教職では非常勤講師が長く、通算して三十年間勤務いたしました。年代の異なる生徒との出会いも楽しく、良い思い出となっておりま。末筆となりましたが当会の発展と、皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。御礼に代えさせて頂きます。



○函館市文化団体協議会 白鳳章

白鳳章を戴いて

函館市 信田 誠
(昭和35年卒)

この度、白鳳章を戴き、身に余る光栄と存じます。

思い起こせば、高校入学当時のことです。中学校から始めた柔道部に入り、一心に活動していたのですが、友人に誘われて音楽部を見学したときのことです。それまで全く経験したことのない混声四部合唱の厚いハーモニーに感動し、髪の毛は逆立ち、背筋に冷たいものが走り、いわゆる未知との遭遇でした。それ以来、すっかり合唱の虜になってしまいました。大学卒業後、青柳小学校、昭和小学校で合唱クラブを指導する中で、何とか澄んだハーモニーになってきたかな、というところで卒業してしまう。もう少し

継続、発展させたいという思いから函館少年少女合唱団を創設しました。小・中高生の中広い年齢層の子どもたちが一堂に会し、大きい子は小さい子の面倒をよく見、小さい子は大きい子を見習って成長しています。音楽的にだけでなく、人間的にも良い関係を育んでいます。子どもたちの可能性は無限であり、持てる力を充分に発揮してくれる。そんな子どもたちが大好きで、楽しくて、三十七年間続けております。

今回の受章は、素晴らしい子どもたちと、これまでご支援、ご協力戴いた方々のお蔭と、心から感謝申し上げます。



○函館市文化団体協議会 白鳳章

支えられて

函館市 安保 勝順
(昭和44年卒)

この度は函館市文化団体協議会より平成二十三年度「白鳳章」拝受の栄を浴しました。身に余る光栄と深く感謝しております。また、受章に際しまして、夕陽会をはじめ、会員の皆様から懇篤なご祝意を頂戴いたしました。心からお礼を申し上げます。

昭和四十四年、書道研究室を卒業し念願の教職に就きました。そして三十八年間、退職まで勤めあげることができました。物事に飽きやすい私ですが、唯一休まず続けてきたのが書作活動でした。故人となつてしまった太田鶴堂先生、諸先輩の指導をいただきましたがらの活動でした。平成二年度に北海道書道展で準大賞を

受賞。「青麒麟」を戴き、このページに紹介されました。「今後頑張ります。」と書いてましたが、今思うと「何を?どう頑張った?」と自問自答している自分が恥ずかしくなります。

この度の受章は「長年にわたる貢献」が事績理由の一つです。与えられた一係りの仕事を進めてきただけの私にとつては、長年にわたつて支えていただいた夕陽会をはじめ、諸先生、諸先輩、仲間のご指導ご支援の賜と感謝しております。

この受章を重く受け止め、微力ですが函館市の文化・芸術の振興発展のため精進してまいります。変わらぬご指導、ご鞭撻をお願いいたします。



○函館市文化団体協議会 青麒麟

青麒麟を受章して

函館市 磯波 理恵
(平成14年卒)

この度、函館市文化団体協議会より青麒麟を受章いただき、身に余る光栄と心より感謝申し上げます。

「書は人なり」と言われますが、生徒や先生方、諸先輩方との出会いで形成されたものが、書に反映されていることを感じます。多くの人から沢山学ばせていただけることは、本当に幸せで「感謝」の一言に尽きます。また、師や諸先輩、仲間や後輩と書道に励むことのできる「最高の環境」があることも、大きな力の源です。

私にとつての転機は、二十九歳になったとき、三十歳からの「挑戦」という思いで決意した日展出品です。毎年、夏に

は勉強会が開催され、全国から書家が集まり作品を書きます。自分の未熟さを知るとともに、書に臨む姿勢や作品にこめる気迫など、刺激を受けて帰ってきます。教職と書道は、私にとつて成長の機会を与えてくれる場所です。教職で学んだことが書道に活かされ、書道で学んだことが教職で活かされる。両輪がなければ、今の自分はないと思っています。

これからは、函館市の子どもたちの書文化振興・育成のお役に立てればと思っております。今後ともより深く、教職、書道の研さんを積んでいく所存です。ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。



○第六十五回北海道新聞文化賞社会部門

農学者宮澤賢治作「稲作挿話」に学ぶ

七飯町 浅利 政俊
(昭和28年卒)

「もうきまつたと云つてい、しっかりやるんだよ。これからの本當の勉強はねえ。テニスしながら商賣の先生から義理で教はることでないんだ。きみのやうにかき」

吹雪やわづかの仕事のひままで泣きながらからだに刻んで行く勉強がまもなくぐんぐん強い芽を噴いてどこまでこのびるかわからない。それがこれからのあたらしい學問のはじまりなんだ。ではさやうなら……雲からも風からも透明な力がそのこどもにうつれ」

この詩は宮澤賢治先生が昭和三年「聖燈」に発表した傑作である。私は在野の植物学徒として六十年近く研究に励む中でこの詩に鼓舞された恩恵は測り知れない程である。詩の中に「透明な力」とあるがこの意味について考え続け、ゲーテの詩「Das Göttliche (神性)」にある「Der Mensch sei edel, mitfreich und gut!」(以下文字数上略)「人間は高貴、慈善、善良であれかし。」と心得た。研究成果はこの詩聖を尊敬し国内外の人々に生かす事を念頭に実践した。母校の恩師同窓生並びに内外のご指導下さった研究者に感謝している。



特別寄稿

釜石の奇跡とよばれて

平野 憲

(昭和55年卒 岩手県釜石市立釜石中学校長)

三月十一日の午後二時四十六分、地震発生当時、学校では帰りの会が終わった頃で、生徒達は校内にいました。地震発生と同時に停電になり、校内放送も使えない中、その場での先生方や生徒達の自主的判断により、校舎外に全員避難しました。そして、点呼も取らず直ちに第一避難場所に走りだしたのです。校地外に全員が出るまで、地震発生から十分もかからなかったと思います。

第一避難場所に到着すると裏の崖が崩れていたこともあり、さらに上にある第二避難場所避難することになりました。

その際、後から避難してきた小学生や保育園児らと一緒に避難しました。生徒たちが避難した第一避難場所はその後津波に襲われ、建物の二階まで浸水しました。もしそこにそのまま止まっていたら、多くの生徒が助からなかったと思います。

さらに、第二避難場所にも津波が迫ったため、上の国道まで避難し、学校にいた生徒二百十二名と職員十七名全員、無事に避難することができました。この一連の避難が、「釜石の奇跡」といわれ、機会あるごとにマスコミ等で取り上げられています。結局、校舎は三階まで浸水し、全壊状態でした。

このように、職員や生徒の自主的な判断で迅速に避難できたのは、やはり日頃の防災教育のおかげだと信じています。その中でも、「防災教育を系統化したこと」が大きかったと思います。これまでの本校の防災教育は、決して全校体制で取り組んでいたとはいえません。そこで、

平成二十二年度から、「自分の命は自分で守る」「助けられる人から助ける人へ」「防災文化の継承」をねらいに定め、「小中合同避難訓練」「宮古工業高校から学ぶ」「安否札千枚配付」「防災ボランティアスト」「EASTレスキュー隊員一級合格」の五つの取り組みを全校で取り組むようにしました。それにより、これまで以上に生徒の防災意識が高まり、防災力を身につけることができたといえます。

「小中合同避難訓練」は、向かい合った小学校と合同で第一避難場所避難する訓練です。ねらいの一つである「助けられる人から助ける人へ」を合い言葉に、小学生や怪我人を素早く避難させるために、手をつないだり、リヤカーに乗せて避難する訓練をしていました。第二避難場所に向かう際、小学生や園児を励ましながらか素早く避難できたのも、この訓練のおかげだと思っています。

また、合同避難訓練の時に使った学級札(学級を書いた紙)を、第一避難場所に置いていたことで、ばらばらに避難してきた児童生徒が素早く整列することができました。これにより次の避難指示を素早く伝え、迅速に小学生と共に第二避難場所避難することにつながりました。「宮古工業高校から学ぶ」では、宮古工業高校が制作した「津波模型」を使つて、津波のシミュレーションを見ました。生徒達は津波の恐ろしさだけでなく津波のメカニズムを知ることができ、さらに知識を深めることができました。「安否札千枚配布」の安否札とは、す

で避難したことを知らせる『避難しました』という札で、それを玄関にかけて避難することで、周りの人がその家の避難状況を把握することができました。これは、生徒が考案したもので二十一年度は百枚配布しましたが、学区内約三千世帯全戸に配するため、二十二年度からは三万年計画で千枚ずつ配ることにしました。今回の震災で実際に活用した家では、その札を見てすぐに避難して助かった人や避難先を見て家族と再会することができた人もいました。また、生徒が町内会長さんらと説明しながら配布したことで、地域に本校の防災教育を知ってもらい、多くの方と知り合うきっかけにもなりました。

「防災ボランティアスト」は、全校生徒が縦割り十コースに分かれて、希望する講座を受講するものです。一コースあたり約二十名の生徒が、専門家による防災に関する授業を受けます。「ボランティアスト」とは「ボランティア」と「イースト(東)」を合わせた造語で、ボランティア精神をもって臨むという意味が込められています。二十二年度は、「防災マップづくり」「救急搬送」「海難救助」「炊き出し」「消火訓練」等十コースで実施しました。講師には、町内会の方から消防署・日本赤十字・海上保安部等々幅広い分野の方々に来ていただき、生徒達は専門的な内容を学ぶことができました。

「EASTレスキュー隊員一級合格」とは、防災学習やボランティア活動を実践することでポイントが加算され、十ポイントで一級が認定される制度です。EはEast(東中生)、SはStudy(学習)、TはTsunami(津波)を表していて、「EASTレスキュー」とは、本校の防災教育の総称でもあります。一く三年各

学年の防災学習で「五級」「四級」「三級」が与えられ、さらに自主的に防災学習やボランティア活動に取り組むと五ポイントで「二級」、十ポイントで「一級」に認定されます。例えば、市の津波避難訓練に参加したり、地域の祭りで郷土芸能を踊ったりした場合でも一ポイントとなります。二十二年度は十五名の一級認定者が出ました。この取り組みは、単に防災の意識付けだけでなく、地域に貢献するという意味でも、地域の方々から大変喜ばれています。

これらの防災教育を実践する上で、もっとも大切なことは、生徒が常に真剣な態度で取り組むということです。生徒がいい加減な態度で取り組んだのでは、いざという時に最善の行動はできません。生徒には、「日頃から普段の生活をしっかりとる」「よう常に言ってきました。それにより、生徒達は日頃からきちんと学校生活を送るよう心がけていました。今回の震災でも、生徒の中には、「決して『釜石の奇跡』ではない。当たり前のことをしたまで。」と言い切る生徒もいるほどです。日頃から、訓練や学習に真剣に取り組んでいたからこそ、「奇跡的な避難」が現実のものとなったのです。

今回の震災を通じて、改めて防災教育(学習)の必要性を痛感しています。日頃の訓練や学習があつたからこそ、想定外の津波にもかかわらず無事に避難することができたといえます。現在、市内の中学校を間借りして学校生活を送っていますが、二十四年の三月には、学区内の浸水しなかった地区に仮設校舎が完成する予定です。新学期からは、また新たな環境での学校再開となりますが、今まで以上に学校・家庭・地域が一丸となり、防災教育に取り組みながら復興に向け頑張っていきたいと考えています。

11/31	1/30	1/24	1/17	1/14	12/14	12/5	12/2	12/2	11/29	11/19	11/19	11/14	11/13	11/9	12/8	11/8
第2回夕陽写生絵画展が五稜郭タワーアトリウムで開催される。(13日まで)	函館市役所渡邊企画部長と橋田会長が懇談する。(函館)	道教委高橋教育長と橋田会長、奥崎幹事長が懇談する。(札幌)	夕陽写生発表式に奥崎幹事長が出席する。(函館)	5分校友会と教育大学眞田理事との懇談会に橋田会長が出席する。(札幌)	留萌支部の研修会に本庁渡邊主査が出席する。(留萌)	道東ブロック会議に青柳副会長が出席する。(北見)	函館副学長と橋田会長、奥崎幹事長が懇談する。(函館)	日胆ブロック会議に橋田会長が出席する。(室蘭)	北斗市高谷市長と橋田会長、奥崎幹事長が懇談する。(北斗)	本部会報二〇五号を発行する。(函館)	教育大学本間学長と橋田会長、奥崎幹事長が懇談する。(札幌)	岩村吉男氏の叙勲祝賀会に橋田会長が出席する。(函館)	函館副学長と橋田会長、奥崎幹事長が懇談する。(函館)	第二回役員会が附属函館小学校を会場に開催される。(函館)	五分校友会・本間学長懇談会に橋田会長が出席する。(札幌)	函館副学長と橋田会長、奥崎幹事長が懇談する。(函館)



会務報告

幹事長
奥崎 敏之
(昭和60年卒)

2/18	2/18	2/18	1/28	1/28	1/28	1/28	1/14	1/9	12/10	12/2	11/19	11/18	○ 2/11	2/10	2/7	2/2	
白老町教育長就任 古俣 博之氏 (昭和51年卒)	ご就任おめでとうございます	函館市支部顧問会議に橋田会長・奥崎幹事長が出席する。(函館)	五分校友会と道教委高橋教育長との懇談会に橋田会長が出席する。(札幌)	第2回渡島支部支会長・幹事長会議に橋田会長が出席する。(函館)	六稜会道南支部懇親会に奥崎幹事長が出席する。(函館)	体育研究室同窓会田中和久教授勇退祝賀会に天野副会長が出席する。(函館)	日胆ブロック会議・室蘭支部例会に橋田会長が出席する。(室蘭)	札幌市支部大忘年会に橋田会長が出席する。(札幌)	特別支援学校支部総会に平田副幹事長が出席する。(札幌)	青森西北五支部の総会に奥崎幹事長が向かう。(雪害のため新青森で断念)	網走連合支部総会・懇親会に天野副会長が出席する。(川湯)	岩手支部総会盛岡集會に橋田会長が出席する。(盛岡)	胆振連合支部大懇親会に橋田会長が出席する。(室蘭)	後志夕陽会勇退者感謝の会に奥崎幹事長が出席する。(岩内)	苫小牧支部懇親会に笹原監査が出席する。(苫小牧)	渡島支部勇退者激励感謝の会に橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(函館)	日高支部総会・懇親会に樋山副幹事長が出席する。(浦河)

北方教育資料館・夕陽記念館のご案内

北方教育資料館・夕陽記念館は、北海道教育大学函館校の敷地内にあり、平成12年2月に国の登録有形文化財に指定されております。また、平成19年に夕陽会設立90周年を記念して、「夕陽記念館」改修工事費用3千万円を函館校に寄付し、平成20年にリニューアルオープンいたしました。さらに、平成23年秋には、各展示室に空調が配備され、湿気から作品を保護する対策がとられました。



湿気対策の空調

展示テーマを、1階第一展示室は「師範学校から教育大学」
1階第二展示室は「教育の歴史」
2階第三展示室は「夕陽の芸術」
2階第四展示室は「夕陽の足跡」
として分類整理しており、他に廊下・階段壁面にも芸術作品を展示しております。

2階ホールで、TVやDVDを見ながら休憩することもできます。

どうぞゆっくりと「夕陽記念館」を見学し、懐かしい夕陽の風を感じてみてください。

◆開館時間は 9:00～16:00

※12/29～1/3の年末年始は休館です。

館内見学を希望の方は、北海道教育大学本館守衛室に申し出てください。



夕陽記念館外観



夕陽バスケットボールOB会「海峡クラブ」 「総会・懇親会」の報告

会長 天野 哲 征
(昭和41年卒)

平成二十三年十一月五日、函館市内のホテルにおいて、平成二十三・二十四年度総会・懇親会を開催しました。

総会では、会務報告・決算報告・監査報告全てが承認され、引き続き事業計画・予算も承認されました。主な事業は、二年に一度の総会・懇親会の開催、会報の発行、現役学生への支援・交流、チーム「海峡クラブ」への協力・支援等の活動、平成十六年より、函館地区及び青森市の中学男子新人大会上位チームによる「海峡クラブカップ」の開催、さらに、会員による夏の懇親交流会を新たに行うこととなりました。また、今年度は役員改選の年に当たり、会長が瀧本剛夫氏（昭36年卒）から私へと引き継ぎました。

総会後、ご来賓として元母校教官中村幹夫先生、夕陽会会長橋田恭一様をお招きし、会員（OB）と母校三・四年現役部員が一堂に会し、総勢四十八人の参加により、懇親会が行われました。

会長挨拶の後、橋田夕陽会会長様より激励とご祝辞をいただきました。夕陽会には、昨年度の「海峡クラブ創設六十五周年記念事業」では、多大なるご支援をいただきました。改めて御礼を申し上げます。その後、昨年度退職した横井明氏（昭47年卒）、山形英幸氏（昭48年卒）に感謝状と記念品が贈られました。

祝宴は、参加者最長老の阿部政志氏（昭19年卒）のお元気な祝杯の発声で賑やかに始まりました。遠くは仙台市、北広島市からも駆けつけ、老いも若きもバスケット談義に花を咲かせていました。その後、チーム海峡クラブと現役学生チームの活動・戦績報告があり、両チームに

活動支援金が渡されました。

年代を超えた会員相互の交流を多いに深め、松居晋吾（平成22年卒）の結びの乾杯により、お開きとなりました。が、その後、各年代層で二次会、三次会へと繰り出し、夜の更けるまでバスケットに明け暮れたとのことでした。

時代や校名が変わっても、会員と現役が健康で、バスケットボールにかけける情熱をいつまでも持ち続け、何らかの形でいつまでも「バスケットボール」に関わっていくことを願っております。

夕陽会並びに夕陽会員の皆様、「海峡クラブ・母校バスケット」の仲間を今後とも応援してください。我々も夕陽会の一員、一組織として、貢献していきたいと考えております。

「夕陽とこしえに、海峡とこしえに」



田中和久教授ご勇退をお祝いする会 — 体育研究室同窓会 —

榎山 聡
(昭和60年卒)

体育研究室同窓の会は約千二百名の会員で組織され、二年に一度、総会・懇親会を開催しております。通常行われている懇親会には、ご退官された恩師の皆様をはじめ、昭和二十八年卒業の先輩から平成二十三年卒業の後輩まで、約九十名ほどの会員の皆様がお集まりになります。

その他、臨時で受賞祝賀会なども開催します。しかし、一番会員が多く集まるのは、「恩師のご勇退をお祝いする会」です。今年は、田中和久教授がご勇退されるということと、平成二十三年十一月十九日に五島軒を会場として「田中和久教授ご勇退をお祝いする会」を開催しました。

参加者は、ご来賓として夕陽会副会長天野哲征様をはじめ、昔と変わらない四人の恩師の皆様、いつも通ってお元気な先輩から現役の学生まで合わせて百五十名をこえる会員が集まりました。近藤健会長の主催者あいさつで幕を開けたこの会は、夕陽会天野哲征副会長、恩師の米谷元捷先生のご来賓のごあいさつと続き、現在、田中教授と共に函館校で教鞭を執る「旧体育科」唯一のメンバーである吉村教授の祝杯で祝宴へと向かいました。

当初はテーブルスピーチを計画していたのですが、あまりにも会が盛り上がり、皆様を席に着かせることが困難になり急遽取りやめにしたほどです。

田中和久教授は、そのルックスと華麗なサッカーのプレイで大人気の教授です。しかし、なんととっても田中教授の素晴らしいところは、エネルギーが豊富な行動力と人を引きつける圧倒的な存在感です。驚くほど多くの方が田中教授の魅力の虜にな



り、いつの間にか田中教授を慕うようになります。まさに、「カリスマ」ということばがピッタリあてはまります。田中教授が推し進めている研究プロジェクトは、函館を生涯スポーツの一大基地にすることです。ご勇退後も東山にある「仕事場」（秘密基地）から、誰もが想像すべからぬ、斬新でみんなが楽しめる企画が飛び出さずして。体育研究室同窓の会のメンバーは、私たちにとって一生お付き合ひする大切な仲間です。その仲間とこの様な会を定期的に、楽しむことができるのも、私たちが函館校を卒業したからです。このように、偶然の出会いがつながり、絆となることを大切に、その偉大さに感謝します。

どうもありがとうございました。

平成24年度 北海道教育大学夕陽会 本部総会・大懇親会・全国支部長会議 のお知らせ

○ 日 時 平成24年 6 月16日 (土)

○ 会 場 函館国際ホテル

函館市大手町 5 番10号 TEL 0138-23-5151

- 全国支部長会議 13時30分～15時30分
- 総 会 16時～17時
- 大 懇 親 会 17時30分～20時

* 全国支部幹事長会議は、8月に開催いたします。ご案内は、全国支部長会議
の中で行います。

平成二十三年度 研究助成報告

今年度の研究会・研修会等への助成実績がまとまりましたので、お知らせします。
(研修部)

- 平成二十三・四年度北海道教育局指定 平成二十三年度 北斗市立浜分小学校 公開研究大会
- 夕陽会空知支部 全体研修会「教育講演会」
- 函館市立えさん小学校 (外国語活動研修会)
- 第五十八回 北海道理科教育研究大会 函館大会
- 夕陽会小樽支部 夏季研修会
- 函館市小学校理科研究会 研修会 (主道大会事前研修会)
- 平成二十三年度 夕陽会札幌市支部 第一回会員研修会
- 平成二十三年度渡島教育局指定 函館市教育委員会研究モデル校 函館市立磨光小学校公開研究会
- 第五十七回 渡島複式教育研究大会 北斗・七飯大会 北斗市立島川小学校 公開研究会
- 北海道教育委員会指定平成二十三年度 北海道道徳教育推進事業 (文部科学省委託事業) 木古内町立木古内小学校 公開研究会
- 平成二十三年度 夕陽会留萌支部研修会
- 平成二十三年度 渡島特別支援教育研究会 研究大会
- 夕陽会 特別支援学校支部 研修会
- 夕陽会 小樽支部冬季研修会

支部の歴史をふりかえって



釧路支部の歴史を振り返って

釧路支部長 菅 田 洋 三
(昭和49年卒) 浜中町立霧多布中学校長

【はじめに】

私が昭和四十九年に母校を卒業して釧路市内の中学校に赴任した当時、管内には二つの支部があり、それが後述の通り合併して釧路支部が誕生しました。

釧路支部の歴史は、私の教職の歴史とも一致します。と言うのも私の初任校には、大先輩の早坂 孝校長先生（昭和14年卒亡）と山本政之先生（昭和42年卒）が在職しており、私を歓迎してくれました。先輩の「行くぞー！」の一言で私は当然同窓会に出席し、以来三十八年間特別な用事が無い限り欠かさず出席しています。

そこで、釧路支部約三十年の歴史を記したいと思いますが、ただ過去の記録をきちんと保存していませんので、私の記憶しているエピソード的なことを記し、釧路支部の歴史とさせていただきます。

【支部の合併】

釧路管内にあった釧路支部と釧路市支部の二つの支部が合併したのは、昭和五十年代で名称は釧路支部となりました。両支部とも会員数の減少が避けられないことから、会員数の維持と活動の活性化が目的だったと思います。

この時の釧路支部長は不確かですが、志摩弘之校長先生（昭和20年卒亡）では

なかったかと思っています。釧路市支部長は高野範雄校長先生（昭和22年卒亡）でした。合併後、市と管内の人事交流が管理職、一般共に盛んになりましたのでいいタイミングだったと思います。

【合併当時】

会員数も不確かですが、二百五十名くらいではなかったかと思っています。現在は七十八名です。集まりは、①四月最終土曜日の総会・歓迎会・懇親会 ②教育局との懇親会 ③道東ブロック会議 ④一月最終土曜日の新年交礼会の四回でした。四月の集まりには、本部会長も駆けつけて下さり、教育局幹部の皆様もお招きし、大先輩のOBの皆様も多数参加され会場がいっぱいになりました。

教育局との懇親会は、阿寒町（釧路市と合併前）でバーベキューを囲み、二次会は市内に戻って行いました。

道東ブロック会議は阿寒湖で開催し、会議後は温泉に漬かり浴衣で懇親交流をしました。他地区でもそれぞれ十勝川温泉や網走湖の温泉、中標津の温泉などで行われ楽しみに出かけました。

それが、官官接待が問題になってからでしょうか、教育局との懇親会はなくなりました。道東ブロック会議も経費削減から市内で行われるようになりました。

【会場】

釧路支部の集まりは、合併した当時から現在まで、会場は「レストラン泉屋」と決まっています。

しかし、昭和六十年代から平成のはじめだと思っています。武田節夫校長先生（昭和24年卒亡）が幹事長をされていた時だけは別会場で行いました。それはキャバレー「銀の目」です。

大きなキャバレーで一階と二階吹き抜けになっており、私たちは一階のソファに座り総会や懇親会を行いました。早い時間に始まりますので、暇にしている女の子が一人に対し二三名付きまです。歌はカラオケではなく、ステージ上で生バンドで歌います。夜七時頃になると一般客がぼつぼつ入って来て、恥ずかしかったのを覚えています。こういうことは忘れないものです。

武田校長先生曰く、「こういう場所ではないと、年寄りが来たくないって言うんだわ！」

【懇親会】

次第は毎回同じ、必ず近況報告があり、最後に寮歌を歌って終わります。

卒業が昭和四十年以前の大先輩の多くは釧路出身で、近況はほんの少し、苦労話から笑い話まで長々と続きました。

釧路から函館まで汽車で何時間もかかったことや込んでいたためドアにつかまり何駅か乗ったこと、全寮制でいつも腹を空かせ、いかに食料を調達したか、などなど。毎回同じような話なのですが、どういふ訳か、毎回楽しみに我が身のごとく聞きました。そんな大先輩の多くは、今は出席が叶いません。

昭和四十年卒以降の先輩や後輩には函

館や道南等の出身者が多くいますが、こちらも学生時代の話が多くなります。これは現在も変わリません。

本部役員がお見えのときは、本部の状況は勿論大切ですが、函館の街の様子を話していただき、函館ののいを感じ取ります。函館弁ですともう最高です。話し手に対し勝手な質問が飛び出し茶々が入りますので、良く言いますと、とても家庭的な雰囲気です。

最後はみんなで丸く輪になり、寮歌を歌いながら座席の周りを回ります。不思議なことに、歌い終わると必ず自席に戻っています。私の十八番、「乾杯の歌」を所望されることもあります。二次会では必ず、「函館の女」（釧路支部歌）を歌ってお開きとなります。

函館や道南等出身の先輩は、退職後に釧路を離れる方が少なくありません。

【支部の運営と活動】

初代幹事長は、田中 実教頭先生（昭和20年卒亡）です。歴代の中で一番長く務められました。この時、私は会計担当で、先生には公私共にお世話になりました。一軒のスナックに十〜二十分居て、何軒も回るのは驚きました。

会の運営はほぼ独断で行い、活動も毎年ほとんど変わることがありません。これは他の幹事長も同様でした。

しかし、高野英弥校長先生（昭和46年卒）が幹事長をされていた時は、役員会を開催し組織的に活動することにしました。平成十年前後のことです。そして「若い人の集い」や「女性の集い」「地区別集い」を初めて実施しました。

それも会員数減少などのことから、元に戻りつつある現支部であります。

故細田辰男氏 略歴

大正5年8月24日 函館市に生まれる
 昭和11年 函館師範学校本科第1部卒業
 留萌管内雄冬小学校訓導
 17年 函館市立東川国民学校訓導
 22年 函館市立松風中学校教諭
 25年 函館市立新川中学校教諭
 34年 函館市立立松川中学校教諭
 42年 函館市立立松川中学校教諭
 46年 函館市立立松川中学校教諭
 49年 函館市立立松川中学校校長
 52年 函館市立立松川中学校校長
 同校定年退職



「サッカー歴」

昭和7年 函館師範学校蹴球部に入部
 9年 第16回全国中等学校蹴球大会
 10年 第18回全国中等学校蹴球大会
 22年 函館蹴球団に入団
 23年 第3回5回国体一般の部選手
 28年 第5回5回にわたり国体教員
 の部監督

「受賞歴」

昭和59年 文部大臣表彰青少年健全育成
 平成3年 北海道サッカー協会賞
 5年 勲五等瑞宝章
 7年 函館市スポーツ賞

「公職等」

函館市五稜郭町町会長
 函館市中学校体育連盟会長



人生の師 故細田辰男先生を偲んで

平成23年10月31日御逝去(享年96歳)

函館サッカー協会顧問
 函館四十雀サッカー倶楽部総代表

小山 昌 吾
 (昭和29年卒)

和顔・愛語

私が細田先生に出会ったのは、昭和三十年第十回国民体育大会教員の部、北海道代表選手として神奈川県大会に出場した時である。監督の先生からご指導を頂いて以来、人生の師と仰いで来た。

世に鬼の監督といわれる人物が多々いるが、先生は私の監督であつた。

選手と車座になり一緒に作戦をねり、それに応じた選手起用を提案するので、選手の側に不満は全くない。和顔・愛語の人であつた。

継続は力なり

選手を引退した三十代後半から四十代シニアが、まだサッカーを続けたいと願う。細田先生を中心に集まり、四十歳から一層がんばるぞの意気込みを込めて、函



平成11年7月24日 千代台陸上競技場
 コンサドーレ札幌岡田武史監督と細田先生

館四十雀サッカー倶楽部と命名して代表になって頂き、本年四十七周年を迎えた。日本サッカー協会が年代別の全国大会を主催しているのが、四十代、五十代、六十代、七十代と年代ごとにチーム作り、道予選を経て全国大会に出場している。昨年は六十代と七十代が全国大会に出場し、六十代チームが全国三位に入賞し、函館市体育協会の表彰を受けた。

昭和五十年、函館サッカー協会の要請を受けて「サッカースクール」を設立し、初代校長に就任、十七年務められた。今年三十八周年、当初の生徒が父親になり、我が子を入学させ、父親が指導員を務めるまでになった。細田先生の持論である「継続は力なり」が実証されたのである。

夕陽会

先生がサッカーの次に愛されたのは夕陽会である。夕陽会本部・函館市支部を問わず、主催する会合には、必ずといっていいくらい出席されていた。

平成二十年、夕陽会九十周年記念式典並びに祝賀会の折には、九十二歳で歩行が困難であるにもかかわらず、強い願いにより私が車イスを押して参加した。夕陽会への愛情の深さに強く感銘した次第である。

日本酒とカラオケ

日本酒が大変好きだった。酔うほど

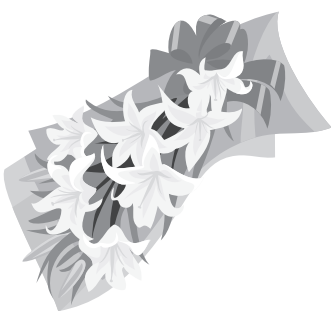
に朗らかにカラオケを歌う。オハコは加山雄三の「君といつまでも」で、九十歳を過ぎても声量豊かで、独特のムードがあり、すばらしいの一語につける。我が倶楽部の夜のアイドルであつた。



日本酒をこよなく愛されました

なでしこジャパン

なでしこジャパンがW杯で優勝した翌日、一面トップにデカデカと写真がのっているスポーツ紙を持って、病床を訪ね写真を見せて快挙を報告すると、じっと写真を見つめ、殆ど話が出来なくなっていたが、「すげーな」とかすかにいわれた。なでしこ優勝の感激を共有できたことは、無上の喜びである。



夕陽会

北海道教育大学函館校同窓会



情報をお待ちしております

皆さんのご協力で、より充実したホームページに！

夕陽会ホームページは、本部・支部・同窓会などの情報を皆さんに広く提供し、会のPRと同窓の絆を深めることに一役買っています。

各支部の会合、同窓会の情報はもちろんのこと、会報の発行、全国各地で活躍の皆様の様子など、情報の提供をお待ちしております。

詳しくは、夕陽会 WEB 委員会へご照会ください。

[illegible]

<http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp>

夕陽会(北海道教育大学函館校同窓会)

事務局：北海道教育大学付属函館小学校 専用電話 0138(34)5520

WEB 委員長:鳴海 裕(函館市立高丘小学校長)

学校電話 0138-57-3381 Email: narunaru@ms1.ncv.ne.jp



根室支部だより

根室支部長 大井 誠一郎
(昭和49年卒 根室市立花咲小学校長)

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

♪霧も深いが情けも深い、根室住みよ
い人ばかり♪と、盆唄にも歌われ霧と暁
の当根室での遅い教育実践の積み重ね
をより一層充実発展させたいものです。

現在の当支部は約五十名(十年前約八十名)の会員数で構成していますが、全
道的にみても極めて少ない支部に相当し
ます。

一頃、輝かしい伝統を築かれた多くの
諸先輩が群雄割拠の如く活躍していまし
たが、退職と同時に根室を去られ、世代
交替の大きなうねり現象は、残念ながら
今も尾を引いています。このことは、単
に根室だけに限らずここ数十年における
道東各支部の共通の悩みでもあります。

例えば、若手会員の多くは、一つ屋根の
下での寮生活の経験もなく、そういう
ことから生じるであろう「同窓意識」が
はつきりと希薄になってきている御時世
という厳しい現実ではないのかと――。

当管内での夕陽の管理職への登用数は
平成に入り一旦増加傾向へと転じたもの
の、慢性的に低迷しつつ今日に至ってい
ます。夕陽に限らず一時は教頭候補すら
ジリ貧状態で、管内小規模校を中心に数校
が止む無く未配置校の年度もありました。
本年度における当支部の行政職をも含
めた会員の年代構成で、二十歳代は約十
三%(十年前七十%)、三十歳代は三十

三%(十年前十%)、四十歳代で三十七
%(十年前五%)、五十歳代は十七%(十
年前五%)という状況で、とりわけ若
手層の減少傾向が十年前との比較でも如
実に裏付けられるところです。恐らく、
従前からご指摘の通り、大学各キャンパ
ス再編に伴う教員希望者の絶対数変動に
よるものと、赴任後五年位経つと「親孝
行息子と娘」が急増し、出身地や道南方
向へと巣立つてしまうという理由からで
しょうか。

我が支部の喫緊課題は、まず、「活動
の活性化」であります。いわゆる同窓会
に対する意識を少しでも理解してもらう
ための努力を地道に続けていかねばなり
ません。あわせて管理職を一人でも多く
輩出し繋げていくことに尽きる訳です。
幸い、行政職では課長職筆頭に指導主事
等の複数配置がここ数年来定着している
傾向で、嬉しく実に頼もしい限りです。

次に、行動する夕陽会の基盤ともい
うべき財政面での確立と会務の効率化、
そして今般の東日本大震災から多くを学
ばせて頂いたところの(絆)を一層強めて
いく組織的スタンスです。更に、道東ブ
ロック研修会の活動の場を通して各支部
のエネルギーを吸収させて戴きたいです。
終わりに、定年間の私ですが、今後
共、後継役員との連携を密にして、引き
続き側面から根室支部を出来る限りしっ
かりと支えて参りたい所存であります。



特別支援学校支部だより

特別支援学校支部長 児玉 稔
(昭和54年卒 北海道白糠養護学校長)

今年度より、特別支援学校支部長を仰
せつかりました。勤務地が函館からかな
り離れているため、函館にて開催される
諸会合にはなかなか参加できませんが、
本支部役員に代理での参加を依頼し、何
とか情報収集に努めて参りたいと考えて
おります。

ところで、本支部におきましては、年
二回、支部会報を発行してきております。
会報のタイトルは「SSEはここ」です
が、これは「a branch of Sekiyon Special
Education」の略称であります。内容とし
ましては、夕陽会本部からの情報や本支
部にかかわる情報などを簡潔にまとめて
配信しております。また、本支部では毎
年一月に支部総会を開催しております。

総会の前には、ご勇退された方々や現職
で活躍されている先生方にご講演をして
いただいております。単に旧交を温める会と
してではなく、研修する機会を大事にし
ております。講演内容は多岐に渡ってお
りますが、今年度は、北海道函館聾学校
長を昨年の三月で勇退された島津彰先
生(現北翔大学教授)に依頼し、『特別
支援教育の「今」を考える』と題してご
講演いただきました。二十名ほどの参加
ではありましたが、大変盛会となりました。
その後、総会、懇親会と実施しまし
た。その後、懇親会には、ご勇退された方々
にも毎年ご参加いただいております。会
中で、参加者より近況なども含めてひと

言いただいておりますが、ご勇退された先
輩方より後輩たちに向けられたメッセー
ジにはとても熱いものがあり、特別支援
教育への思いや教師としての有りような
ど、参加した者にとっては、大変貴重な
お話を聞き取ることができ、毎回よい
勉強をさせていた、機会ともなっており
ます。

このように、ふだんお会いする機会の
少ない先輩や同期生、後輩が一堂に会し、
交流を深め、研修をすることは、とても
有意義な時間であると感じております。
また、何か困ったことがあったときに、
夕陽会の方々に相談することで解決する
ことができたなど、皆さんに支えていた
だいていると感じることが多々あるだけ
に、これからもこの集まりを絶やすこと
なく大切にしていきたいと考えておりま
す。

特別支援学校支部は、支部の名称を変
更してから、まだ五年と新しい支部では
ありますが、支部を立ち上げてからは十
三年が経過しています。これから全道
に勤務している特別支援学校の会員と交
流をし、絆を深め、充実した活動として
いけるよう努めて参りたいと考えており
ます。

今後とも、夕陽会の皆様のご理解、ご
協力を賜りますとともに、特別支援教育
に携わっている教職員へのご支援も含め、
よろしくお願いいたします。

前納会費納入会員名簿追加分

佐藤 由美子 札幌 昭42 青坂 榮廣 函館 昭45
舟津 真生江 苫小牧 昭53 (平成二十四年二月十日現在)

夕陽会員計報

吉岡 英磨氏 昭13	23・1・18	山川 政信氏 昭32	23・12・30
余市町黒川町18の46	一樹氏	函館市西旭岡町3の42の12	英子氏 昭30
芦原 一敏氏 昭25	23・(月日は不明)	門間 康志氏 平3	23・12・31
新冠町(遺族の希望により詳細は掲載なし)		札幌市西区八軒10西4の3の5の402	裕子氏 昭30
仙石 利彦氏 昭35	23・7・14	黒木 重雄氏 昭22	24・1・2
厚沢部町(遺族の希望により詳細は掲載なし)		白老町緑丘1の3の40	土美子氏 昭30
朝倉 美隆氏 昭23	23・7・16	木村 武廣氏 昭20	24・1・7
函館市時任町6の11	綾子氏	函館市花園町7の11	敦子氏 昭30
野村 芳郎氏 昭20	23・7・28	三田 篤子氏 昭28	24・1・17
白老町字社台277の121	幸子氏	函館市中道2の10の1の308	靖子氏 昭30
渡辺 洋治氏 昭30	23・9・16	工藤 智氏 昭22	24・1・19
伊達市有珠町6の2	洋子氏	七飯町本町3の10の73	明子氏 昭30
園部 仁氏 昭19	23・9・16	菊地 龍氏 昭31	24・1・24
札幌市厚別区青葉町15の18の1	真人氏	函館市柏木町21の16	寛美氏 昭30
品田与志栄氏 昭35	23・10・27	千葉 博氏 昭13	24・1・25
名古屋市名東区高針5の107の101	道代氏	北見市末広町365の9	うた子氏 昭30
西谷富士雄氏 昭18	23・11・28	中野(野村)智子氏 昭38	24・1・25
函館市梁川町22の2	和子氏	横浜市港北区鳥山町663の507	幸夫氏 昭30
岩田 喜義氏 昭32	23・12・7	田中 俊也氏 昭29	24・2・7
高槻市別所本町15の2	幸子氏	函館市柏木町16の6	森 法子氏 昭30
亀谷 幸夫氏 昭46	23・12・14	(平成二十四年二月十三日現在)	
(遺族の希望により住所・喪主の掲載なし)			
清野 唯夫氏 昭23	23・12・15		
函館市山の手1の1の4	唯仁氏		
岩田朝日幸氏 昭30	23・12・26		
函館市日吉町3の30の5	澄子氏		
佐藤 辰男氏 昭19	23・12・27		
札幌市北区篠路8の2の8の11	典子氏		
須田 正蔵氏 昭12	23・12・29		
室蘭市絵鞆町3の5の6	ツル氏		



前納会費制度

利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお願いいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(隔年発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載、その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

- ①大正年代の卒業生 五千円
- ②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万円
- ③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円
- ④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報第二〇六号をお届けいたします。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重な写真等をお寄せいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、二月四日、立春の日に函館山山頂より望んだ函館市街の眺望です。今年は函館地方でも厳しい寒さの毎日が続きました。立春の日も、いまだ雪景色の函館ですが、それだけに今年の春は一際待ち遠しい気がします。

◆三・一一の東日本大震災より、まもなく一年、今号では「釜石の奇跡と呼ばれて」というタイトルで、釜石東中学校の平野校長先生(昭和五十五年卒)に特別寄稿いただきました。私たちの今後の防災教育のあり方に大いに参考となる内容です。ありがとうございます。

◆秋の叙勲等でご功績を認められ、様々な分野で賞(章)をお受けになった皆様の喜びの声も掲載しています。今後益々のご活躍をご祈念いたします。

◆昨年暮れ、昭和四十一年卒業で京都市在住の菅原マリ子様から「丁寧なお礼のお便り」をいただきました。夕陽会報を楽しみに待っている方がいらっしゃるかと今後も微力ながら充実した紙面となるよう努力してまいります。

◆ぜひ掲載してほしい情報・取材してほしい題材等、どしどし本部事務局や情宣部にお寄せください。お待ちしております。(情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号(0138) 46-22235
夕陽会専用(0138) 34-55220
FAX番号(0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)